

平成 25 年度（①荇子田小）環境教育出前講座「みんなで考える 地球にやさしく ヒトにも便利な かしこい移動のしかた」の実施報告

はじめに

●平成 24 年度から実施している「地球温暖化と交通」に関する環境教育出前講座について、本年度は全 3 校で実施します。本資料はこのうち、8 月 30 日に開催した荇子田小学校での実施報告です。

1 出前講座の概要

●あざみ野駅から約 2km 西側に位置する横浜市立荇子田小学校（青葉区）の 5 年生の社会科の授業として、交通手段の選択と地球温暖化との関係を学習する授業を行いました。

- テーマ** みんなで考える 地球にやさしく ヒトにも便利な かしこい移動のしかた
- 目的** 地球温暖化のしくみや、交通手段の選択と温室効果ガスの関係を学ぶとともに、グループワーク（以後GW）を通じてみんなで考える。
- 実施日** 平成 25 年 8 月 30 日（金）
3 校時 10:40~11:20 座学
4 校時 11:25~12:05 グループワーク
- 対象者** 荇子田小学校 5 年生（3 クラス合同）

【荇子田小学校の位置と交通の特徴】

- 最寄駅であるあざみ野駅まで路線バスでアクセス可能
- 地下鉄や東急田園都市線で、横浜市街地方面、東京方面ともアクセス性が高い地区



2 出前講座の内容

●出前講座では、「①交通手段の選択と地球温暖化との関係を学ぶ」、「②自分たちの日常生活の中での“かしこい移動”を考える」ことを目標に、以下の内容で 2 校時の授業を行いました。

座学 交通手段と地球温暖化との関係を学ぶ

- 内容** パワーポイントを用い、3 クラス合同で座学を実施
- 配慮点** 子どもたちが自ら参加する雰囲気をつくるため、授業途中でのクイズや、自分の考えを発言する機会を多く設けています。
- 教材** 座学用冊子（A4 版 12 ページ）



GW おつかいに行くときの「かしこい移動」を考える

- 内容** 身近なお店に、指定の“おつかい”に行く際の“かしこい移動”を考える GW を実施
- 配慮点** 大きな地図や、おつかい内容・交通手段のカードを事前に準備し、子どもたちが自分で交通手段を考え、その内容が地球環境にどのような影響を及ぼすのかを考えることに注力できるよう配慮しました。
また、お年寄りや車いすの方など、子どもたちに同行する人の条件を設定し、条件により移動のしかたをどう変えるのか、考える機会を設けました。
- 教材** ①グループワーク解説書（A4 版 13 ページ）
②書き込み用地図（A1 版：下図参照）
③おつかいカード（シール式）
④同行者カード（シール式）
⑤交通手段カード（シール式）

■ 3 校時：座学 ■ 【全 3 組合同】



【1 組 GW】



■ 4 校時：グループワーク ■ 【2 組 GW】



【3 組 GW】



■ おつかいに行くときの「移動のしかた」

①おつかいの内容 / 移動のしかた

②誰と「いっしょにおつかいに行く」？
車いす の人と一緒に

③「どんな条件で」おつかいに行く？
できるだけ二酸化炭素を出さない、環境にやさしい方法を考える！！

⑤「一緒に行く人」の条件、「交通手段を選ぶ条件」に対して、気づけたことは？
車いすの人がいっしょなので、フルマを使ったかったけど、環境にやさしい手段を考えて、バスと電車で移動することにした。段差がなければ大丈夫だと思う。

3 出前講座の結果

3校時の座学では..

- 3校時の授業では、地球温暖化について、これまでの授業では学んでいないとのことでしたが、**多くの子どもたちが「知っている」と答えており、言葉や大凡の意味は認識しているようです。**
- 子どもたちに、電車やバス、自転車での利用状況を聞いたところ、多くの子どもたちがバスや電車、例えば塾に通ったり、親戚の家等に遊びに行くなど、普段から公共交通を利用していました。
- 一方で、自転車のルールのうち、道路交通法での「**13歳未満はヘルメットをかぶること**」^{*}に対して、**子どもたちからの不満の反応**がありました。不満であっても、子どもたちが最もよく使う自転車を、安全に使ってもらうために、**今後の授業を始め、様々な場面で伝えていくことが必要である**と感じます。
※厳密には、保護者が13歳未満の子供にヘルメットをかぶらせるように努める義務

4校時のグループワークでは..

- 4校時のグループワークでは、わずか数km圏内のおつかいでも、「環境にやさしい動き方」や「お金を使わない」など、**色々な目標を子どもたち自らが考え、それに合わせた交通手段を選択**していました。
- 昨年度の授業に対して本年度は、車いすの方、お年寄りの方など、子どもたちに同行する人の条件を追加しており、例えば**車いすの方が同行するグループでは、車いすでの移動に配慮した手段を考えるきっかけ**にもなりました。
- 出前講座の目的である【かしこい移動】とは、必ずしも「**二酸化炭素を出さない**」ということに固執せず、おつかいの内容や、一緒に移動する人の状況などに合わせて、**電車も、バスも、クルマも、自転車も上手に組み合わせて使う**ことを言います。
- 今回、子どもたちが自分たちで「移動のしかた」を考えたとき、**各グループでそれぞれの想いをもち、色々な手段を提案してきたこと**は、今回の出前講座の趣旨を伝えられた結果であると考えています。



お年寄りと一緒に動くため、「できるだけ楽に移動する」ことに気を付けて考えた提案です。

お年寄りを長い距離歩かせない、花束を枯らさないために、戻るときだけクルマを使う提案です。

運転できる大人と一緒にでも、環境に配慮してクルマを使わない提案をしています。

4 出前講座の実施結果を踏まえた今後の進め方

■教員からの評価

- 出前講座を終えたのち、教員の先生よりいただいた「ふりかえりアンケート」は以下の通りでした。
- 総じて良評価を頂いていますが、①の目的やねらいの共有について、**事前調整を学年主任の先生との打合せを中心に実施**してきたため、**他クラスの先生との共有化が一部取れていなかった**点があります。事前打合せ、学内での情報共有などを充実し、**目的、ねらいの共有化を進めることが必要**と考えます。

	学年主任（事前打合○）	教員①（事前打合×）	教員②（事前打合×）
①目的やねらいの受講者・講師間での共有ができていたか？	5	2	4
②受講者の興味を引き出すことができていたか？	5	4	5
③事前に設定した環境教育の目標が達成できたか？	5	4	4
④学習活動や環境教育の推進に役に立ったと感じるか？	5	4	4

（数字は5段階評価）

■今後の進め方

- 座学については、クイズや問いかけ等に対する児童の反応も良いことから、基本的な内容は踏襲しながら、**講師の説明に用いるパワーポイント等の充実や、授業のポイントのまとめを検討**していきます。
- グループワークについては、**授業時間が不足しがち**で、児童の発表時間の確保が難しく、全3クラスともに、講師による講評で授業を終える形となりました。
- また、移動手段を選ぶ前に決める「③移動の条件」と、マップを作った後に考える「⑤気を付けたこと」の内容が重複するグループも多く、**より意図の分かりやすい方法に更新する必要がある**と考えます。

改善の取組① 「③移動の条件」を寄与条件として与える仕組みによるGW手法の改良

- 「CO₂をださない」、「お金をかけない」などの「③移動の条件」を、サイコロによりランダムで選択する方法に変更し、「②一緒に行動する人（高齢者等）」とともに、**移動を考える際の寄与条件として提示**します。
- GW時間の短縮とともに、「**⑤気を付けたこと**」を真剣に考えるためのきっかけになると考えます。

改善の取組② 「座学・GWを行う上でのポイント」のまとめ資料の作成

- 現在の内容を基軸として、座学及びGWを担当する講師が適切に授業を進められるよう、本年度までに実施する授業を踏まえ、「**ポイントのまとめ**」を作成します。
- より多くの学校で交通教育が実施できるよう、**横展開を図る仕組みづくりのきっかけ**になると考えます。